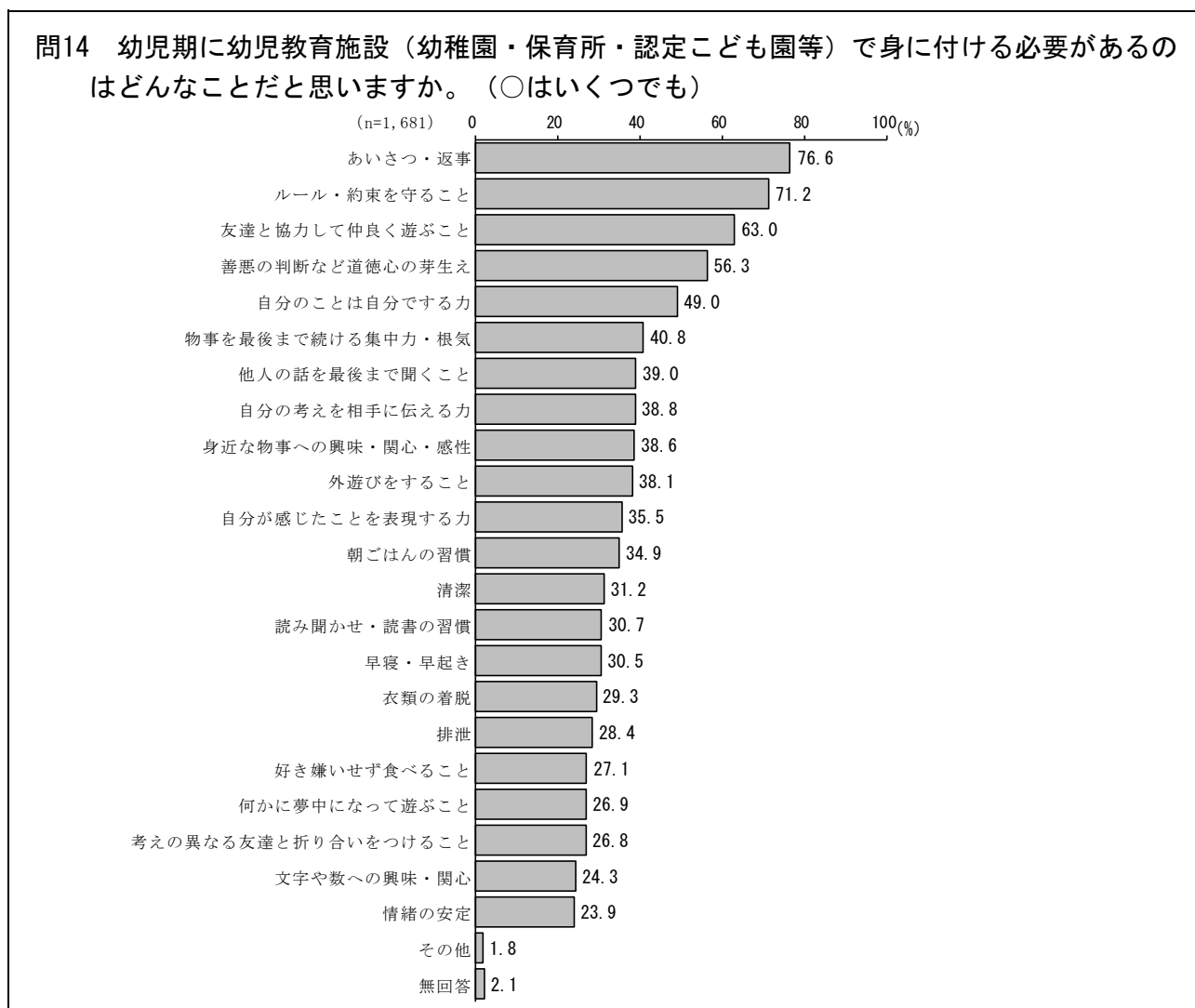


## V 地域・家庭の教育力

### 1. 幼児教育施設で身に付ける必要があること

#### －「あいさつ・返事」が7割台半ば－



幼児教育施設で身に付ける必要があることについては、「あいさつ・返事」（76.6%）が7割台半ばと最も高くなっている。次いで、「ルール・約束を守ること」（71.2%）が7割を超え、「友達と協力して仲良く遊ぶこと」（63.0%）が6割台半ば、「善悪の判断など道徳心の芽生え」（56.3%）が5割台半ばと続いている。

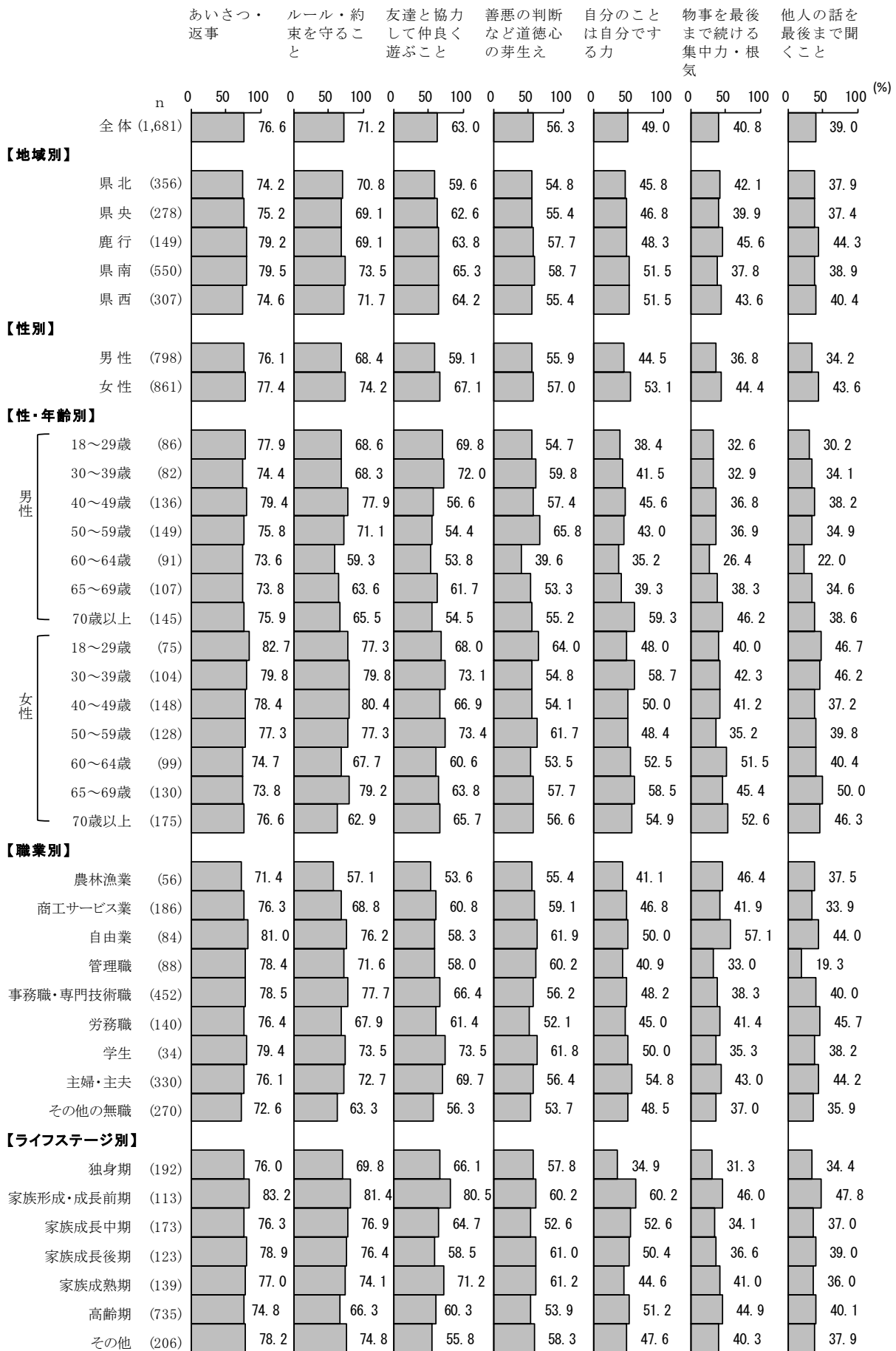
#### －女性で「友達と協力して仲良く遊ぶこと」が男性よりも8ポイント高い－

性別でみると、「友達と協力して仲良く遊ぶこと」は、女性（67.1%）が男性（59.1%）よりも8ポイント高くなっている。

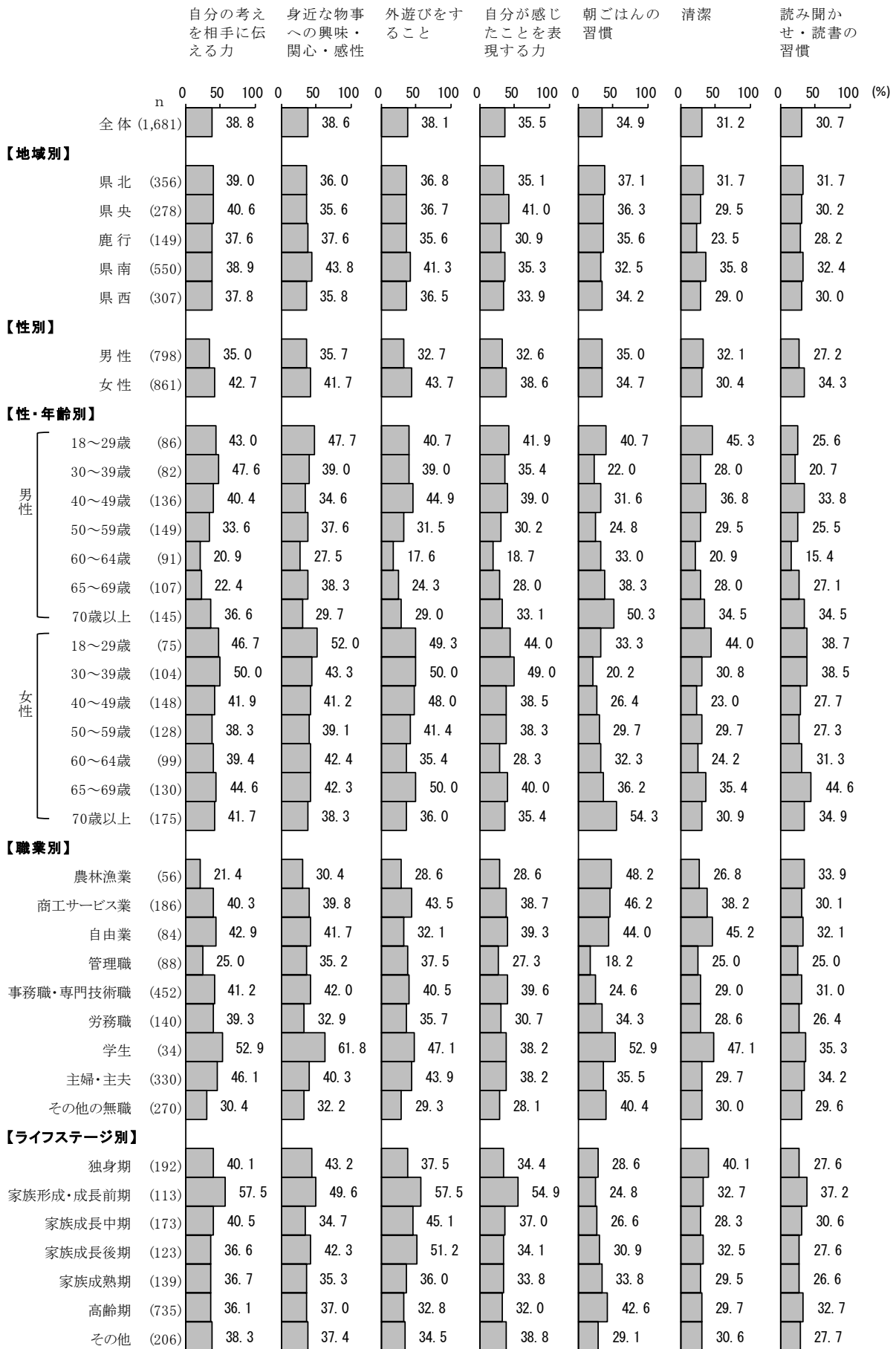
#### －女性の30代、50代で「友達と協力して仲良く遊ぶこと」が7割台半ば－

性・年齢別でみると、「友達と協力して仲良く遊ぶこと」は、女性の30代（73.1%）、50代（73.4%）で7割台半ばと高くなっている。

図V 14-1 幼児教育施設で身に付ける必要があること  
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別—上位14項目)

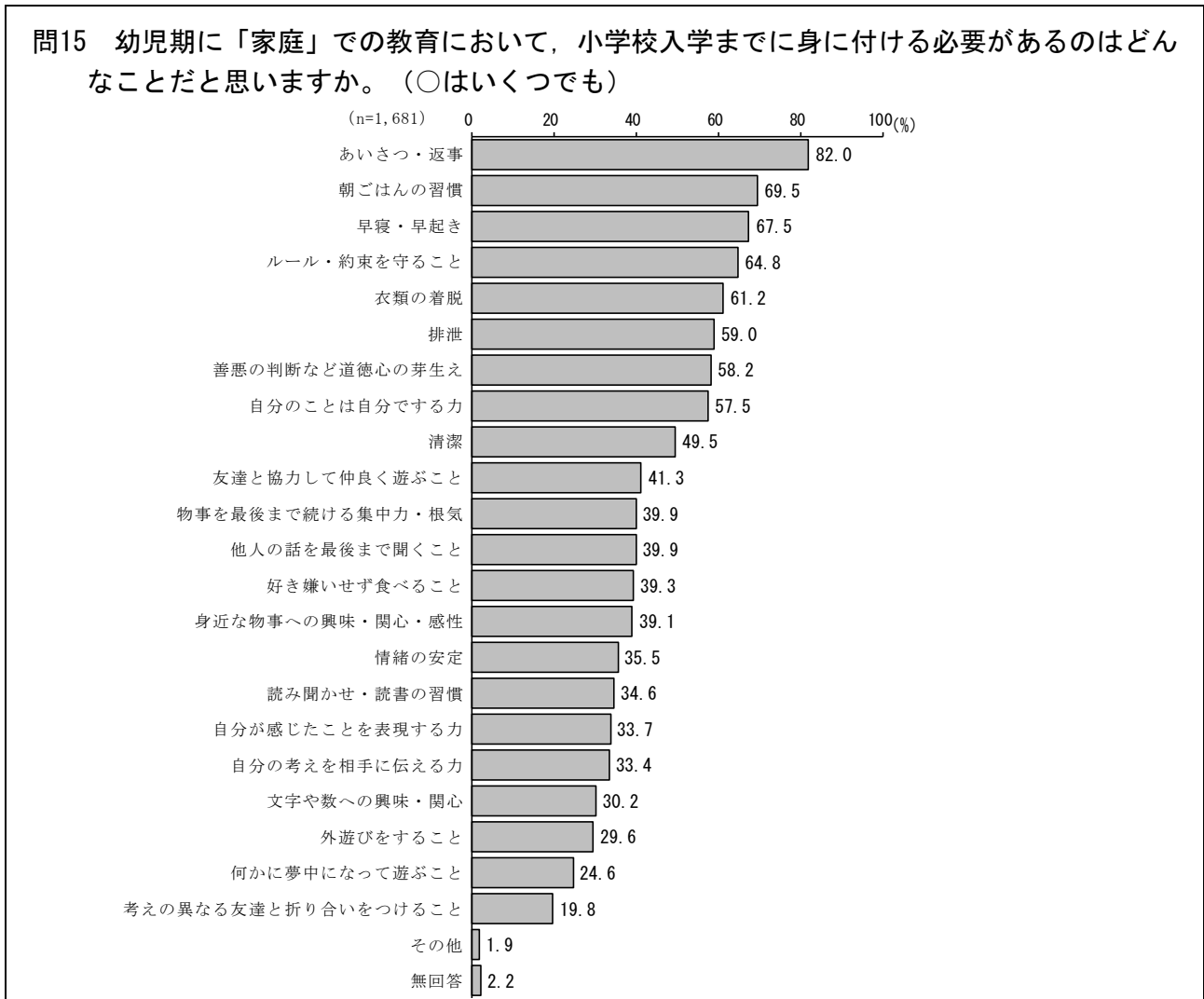


〈続き〉図V 14-1 幼児教育施設で身に付ける必要があること  
 (地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別—上位14項目)



## 2. 「家庭」で小学校入学までに身に付ける必要があること

### －「あいさつ・返事」が8割超－



家庭において身に付ける必要があることについては、「あいさつ・返事」（82.0%）が8割を超えて最も高くなっている。次いで、「朝ごはんの習慣」（69.5%）と「早寝・早起き」（67.5%）が約7割、「ルール・約束を守ること」（64.8%）が6割台半ば、「衣類の着脱」（61.2%）が6割を超えて続いている。

### －女性で「排泄」が男性よりも約18ポイント高い－

性別で見ると、「排泄」は、女性（67.8%）が男性（50.0%）よりも約18ポイント高くなっている。

### －女性で「朝ごはんの習慣」が男性よりも約17ポイント高い－

性別で見ると、「朝ごはんの習慣」は、女性（77.8%）が男性（60.4%）よりも約17ポイント高くなっている。

### －女性の40代で「あいさつ・返事」が9割超－

性・年齢別で見ると、「あいさつ・返事」は、女性の40代（91.2%）で9割を超えて最も高くなっている。

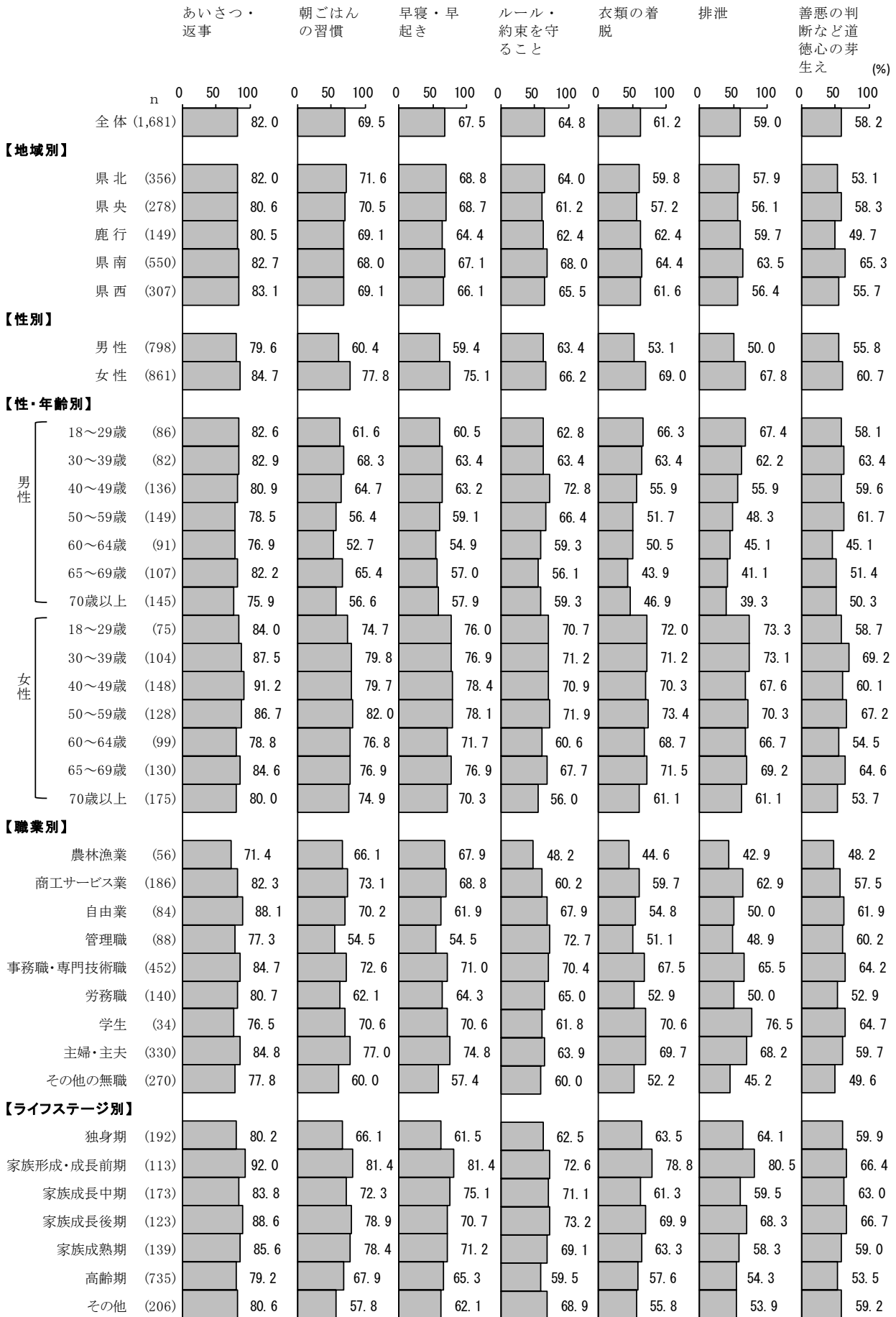
**－女性の50代で「朝ごはんの習慣」が8割超－**

性・年齢別で見ると、「朝ごはんの習慣」は、女性の50代（82.0%）で8割を超えて最も高くなっている。

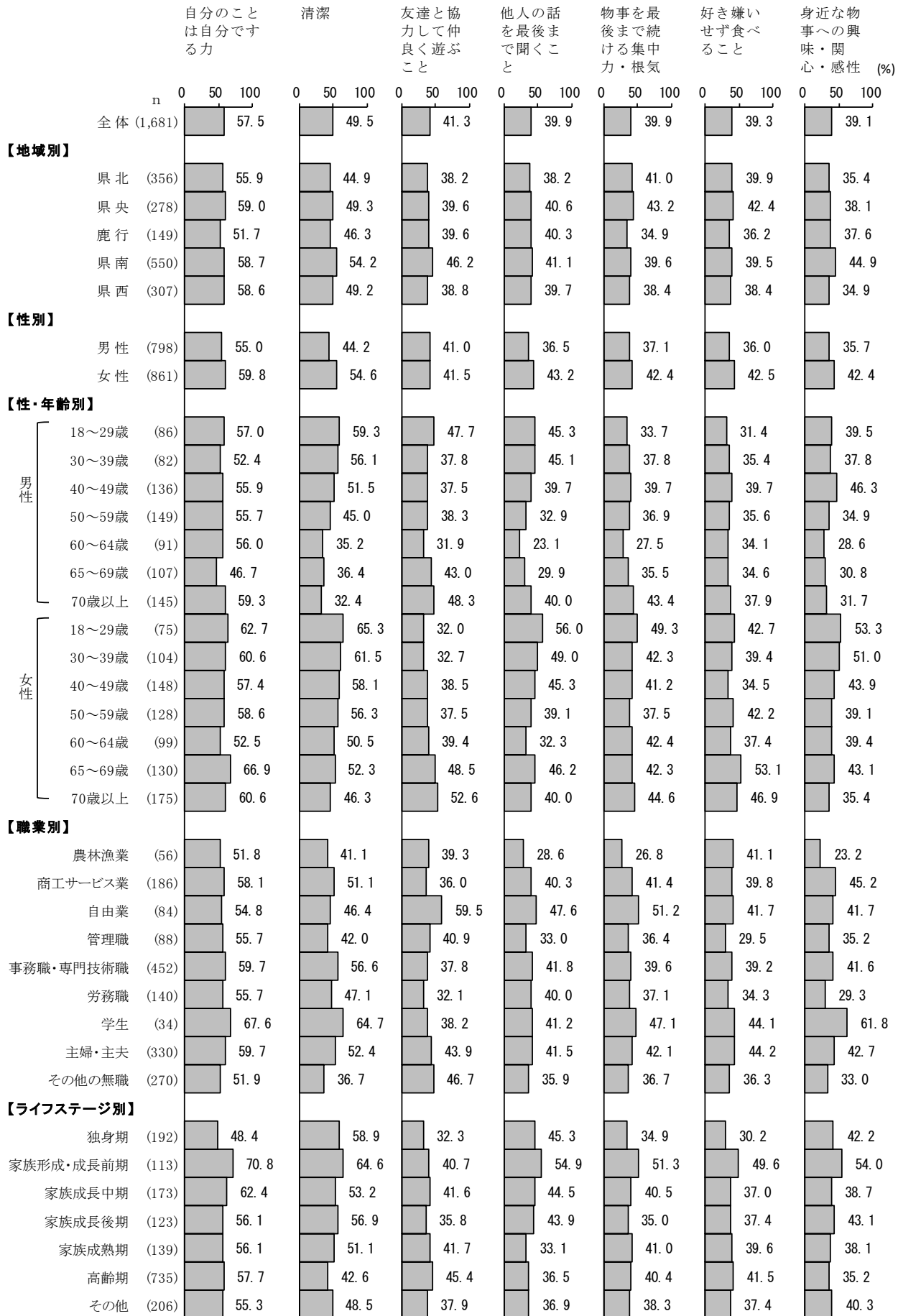
**－女性の18～29歳，30代で「排泄」が7割台半ば－**

性・年齢別で見ると、「排泄」は、女性の18～29歳（73.3%），30代（73.1%）で7割台半ばと高くなっている。

図V 15-1 「家庭」で小学校入学までに身に付ける必要があること  
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別—上位14項目)



〈続き〉図V 15-1 「家庭」で小学校入学までに身に付ける必要があること  
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別—上位14項目)



### 3. 就学前教育・家庭教育についての意見や要望（自由記載の集計と一部抜粋）

#### －「県の取組を周知すること」が最も多い－

問16 県では、生涯にわたる人間形成にとって大切な乳幼児期における就学前教育・家庭教育について重点的に取り組んでいます。就学前教育・家庭教育について、ご意見やご要望があれば自由にご記入ください。

順位	項目	件数	順位	項目	件数
第1位	県の取組を周知すること	31	第21位	遊び場の確保	5
第2位	親自身の学びが必要	29	〃	自主性・自立性を育てる	5
第3位	子育てへの支援	24	〃	協調性を持つこと	5
第4位	親に自覚を促す・責任を持たせる	22	〃	表現する力が必要	5
第5位	親の愛情が重要	20	〃	親の孤立をふせぐ	5
第6位	保育所・幼稚園等の充実	18	〃	人とのふれあいが大切	5
第7位	しつけをしっかりとすること	12	第27位	親子イベントの開催	4
〃	外遊びや様々な体験が大切	12	〃	のびのびと過ごさせること	4
第9位	道徳・倫理の教育	11	〃	自然とのふれあい	4
第10位	子どもとの時間を確保する	10	〃	心身の健康が大切	4
第11位	あいさつ・返事が大切	9	〃	思いやりを持つこと	4
〃	教育施設と家庭の連携を推進	9	〃	家庭環境を良くすること	4
第13位	善悪の判断を身につける	8	〃	遊びから学ぶことが大切	4
第14位	子どもの個性・多様性を受け入れる	7	第34位	発達障害への対応	3
〃	子育てセミナーの開催	7	〃	長所をのばす	3
〃	規則・マナーを守る	7	〃	図書館等の本の充実	3
〃	規則正しい生活をする	7	〃	祖父母世代とのふれあいの推進	3
第18位	家庭教育が大事	6	〃	子どもの話をよく聞く	3
〃	教員や保育者の資質向上	6	〃	友達や仲間づくりが大切	3
〃	地域全体での子育て	6	第40位	母親の役割が重要	2
			—	分からない	3
			—	その他	49

※回答内容ごとに項目へ分類。

※一人の回答が複数の内容に渡る場合には、それぞれの項目へ分類。

就学前教育・家庭教育についての意見や要望（自由記載）としては、「県の取組を周知すること」が最も多く、次いで「親自身の学びが必要」、「子育てへの支援」、「親に自覚を促す・責任を持たせる」が上位に挙げられている。



## 「県の取組を周知すること」 (31件)

### [記載内容の抜粋]

- どう取り組んでいるのか知らないで周知すべき。(男性, 30～39歳)
- 県で「重点的に取り組んでいる」就学前教育及び家庭教育の内容について浸透しているように感じられません。まず取り組まれている内容について具体的に知りたいです。(女性, 40～49歳)
- 経済力がない家庭にどのような形で取組を伝え、どのようにしたら活用できるかを理解してもらえると良いのではないのでしょうか。なかなか難しいとは思いますが、そういった方々の負担をちょっとでも減らせれば。(男性, 40～49歳)
- 県で何をしているのか全く知らない。乳幼児期に力を入れるなら、妊娠中に情報提供してほしい。(女性, 40～49歳)
- 就学前教育、家庭教育に重点的に取り組んでいたことを初めて知りました。まずは県民や女性、1つ1つの家庭にこのような取組を行っていることを、知ってもらわなければならないのでしょうか。(女性, 30～39歳)

## 「親自身の学びが必要」 (29件)

### [記載内容の抜粋]

- 子どもに色々な事を教える親が、しっかりとした考え方を知らなければ、子どもにも教えることが出来ないとしますので、親の教育も必要だと思います(母親・父親教育をやってほしいです)。(女性, 65～69歳)
- 親子ともに他者と交流をさかんにして、両者ともに対人関係を学ぶ、さらには密にしていこうと体験し、学べる環境作りが必要。(男性, 30～39歳)
- 教育への取り組みはとても大切だと思いますが、子どもへの教育を考える中で教育する側の親たちへの意識についても取り組むべきではないかと思います。(男性, 18～29歳)
- 家庭での教育ができてない親が増えている。また、勘違いしている親が多い。幼児教育施設にまかせっきりになっている。親の教育が必要なことが多くなっている感じがする。(男性, 40～49歳)
- しつけと虐待の区別がつかない人が多いようなので、親に対する家庭教育のあり方等の取組が必要だと思う。(男性, 50～59歳)

## 「子育てへの支援」 (24件)

### [記載内容の抜粋]

- 赤ちゃんがいる家庭に、親子で参加できるイベントや情報などを郵送したり、訪問してもらい、子育てについて相談できるような環境になれば良いと思う。赤ちゃんを育てながら、自分で情報収集するのも限界があり、不安な時に誰に相談すればいいのかわからないということも、なくして欲しい。(女性, 40～49歳)
- 発達障害や自閉症の子どもは早期発見(診断)とそういった子どもの育て方・接し方を家庭や教育施設に教えることのできるセンター等の拡大。(男性, 30～39歳)
- 児童館を各地に造って、子育て中の母親を支援してほしい。だれでも気がねなく遊べる場所が欲しい。(男性, 70歳以上)
- 共働きの家庭としては子どもが病気になった際に頼る場所が少ないことが非常に困っているので、病児保育施設などの充実を期待しています。(男性, 40～49歳)
- 家庭で十分な教育をするため、心の余裕をもって子どもに接するために、就労してる人たちのワークライフバランスが向上する取組をしてほしい。(女性, 30～39歳)

## 「親に自覚を促す・責任を持たせる」 (22件)

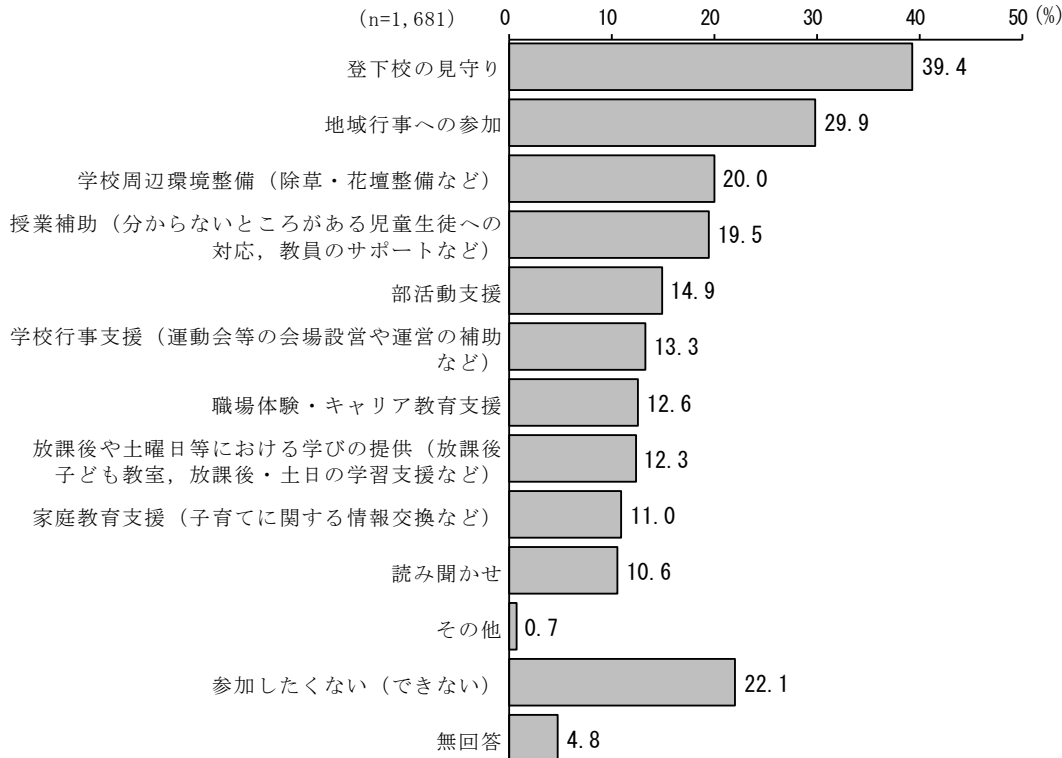
### [記載内容の抜粋]

- 人間として最低限やるべきこと、できなくてはならないことを子に教えるのは親の役目であり、社会と関わり合いをもち文化的に成長させていく側面は家庭以外の場所でのサポートも重要ではないかと思います。(男性, 40～49歳)
- 娘が保育をやってます。保育園まかせの家庭があると聞いています。家庭がしっかりと教育していると、園や外の社会でマナーを守れる子どもになると思います。愛情もたっぷりそそいであげれば、子どもは落ち着いて(心が)育つと思います。(女性, 40～49歳)
- まずは家庭教育、つまり親がきちんと教育の大切さを自覚すること。(男性, 50～59歳)

#### 4. 地域の教育力向上のために、参加したい取組・活動

##### －「登下校の見守り」は約4割－

問17 地域の教育力向上のために、地域社会と学校が連携・協働して子どもたちの学びや成長を支える様々な活動がありますが、次の内どのような取組、活動に参加したいと思いますか。（○はいくつでも）



地域の教育力向上のために、参加したい取組・活動としては、「登下校の見守り」（39.4%）が約4割と最も高くなっている。次いで、「地域行事への参加」（29.9%）が約3割、「学校周辺環境整備（除草・花壇整備など）」（20.0%）と「授業補助（分からないところがある児童生徒への対応、教員のサポートなど）」（19.5%）が約2割で続いている。一方、「参加したくない（できない）」（22.1%）は、2割を超えている。

##### －男性の60～64歳、女性の50代で「登下校の見守り」が約5割－

性・年齢別でみると、「登下校の見守り」は、男性の60～64歳（47.3%）と女性の50代（48.4%）で約5割と高くなっている。

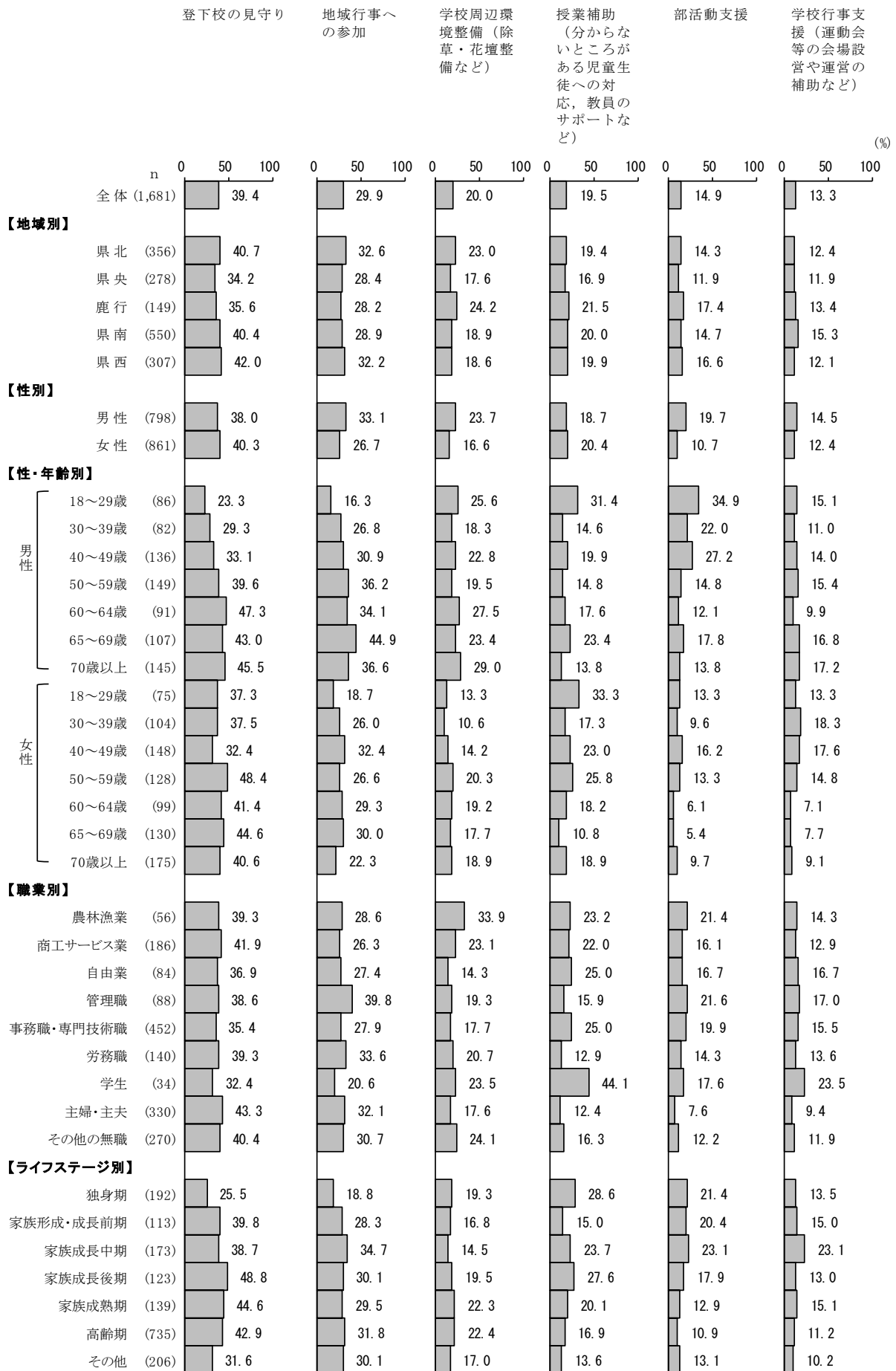
##### －男性の65～69歳で「地域行事への参加」が4割台半ば－

性・年齢別でみると、「地域行事への参加」は、男性の65～69歳（44.9%）で4割台半ばと最も高くなっている。

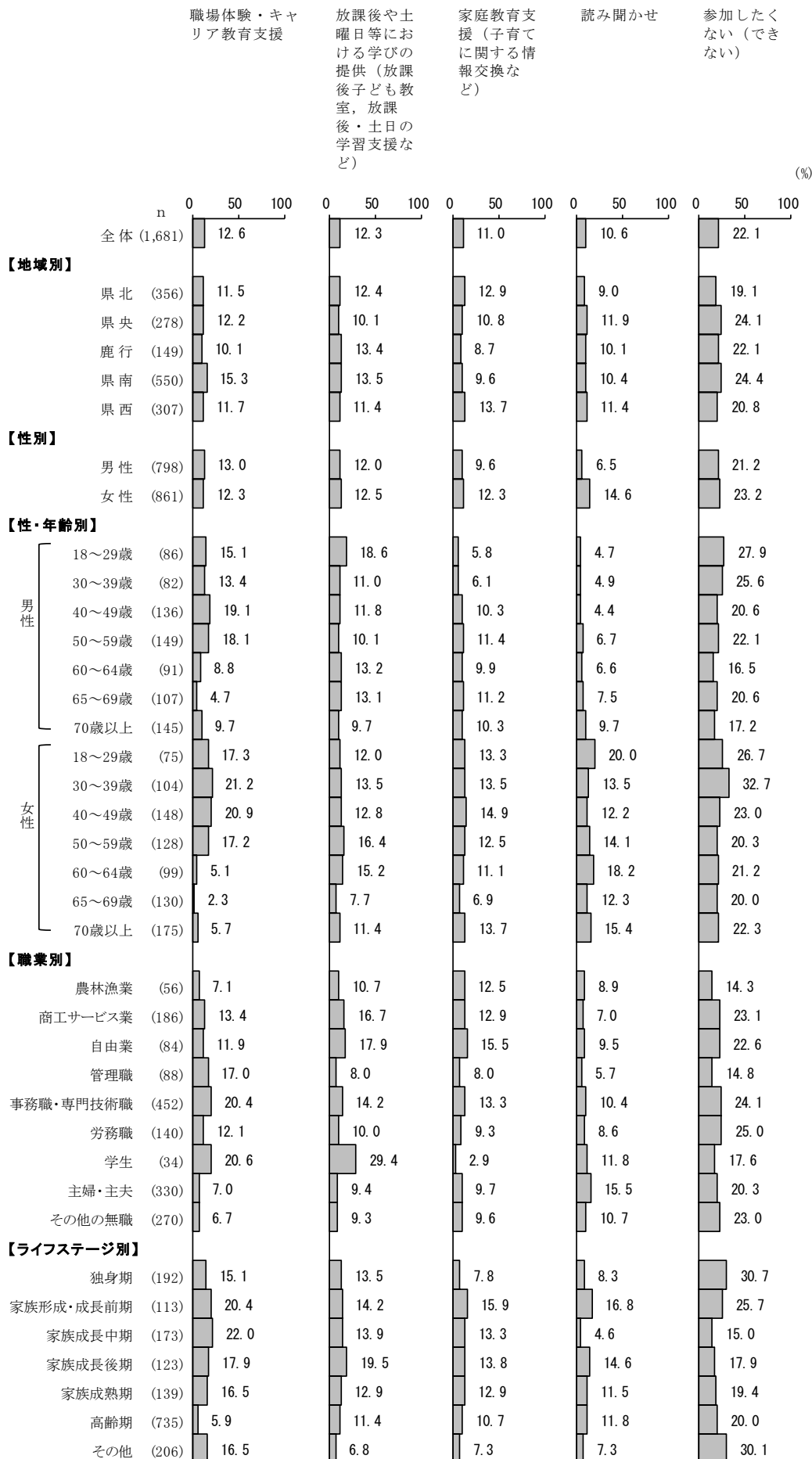
##### －女性の30代で「参加したくない（できない）」が3割超－

性・年齢別でみると、「参加したくない（できない）」は、女性の30代（32.7%）で3割を超えて最も高くなっている。

図V 17-1 地域の教育力向上のために、参加したい取組・活動  
 (地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別)

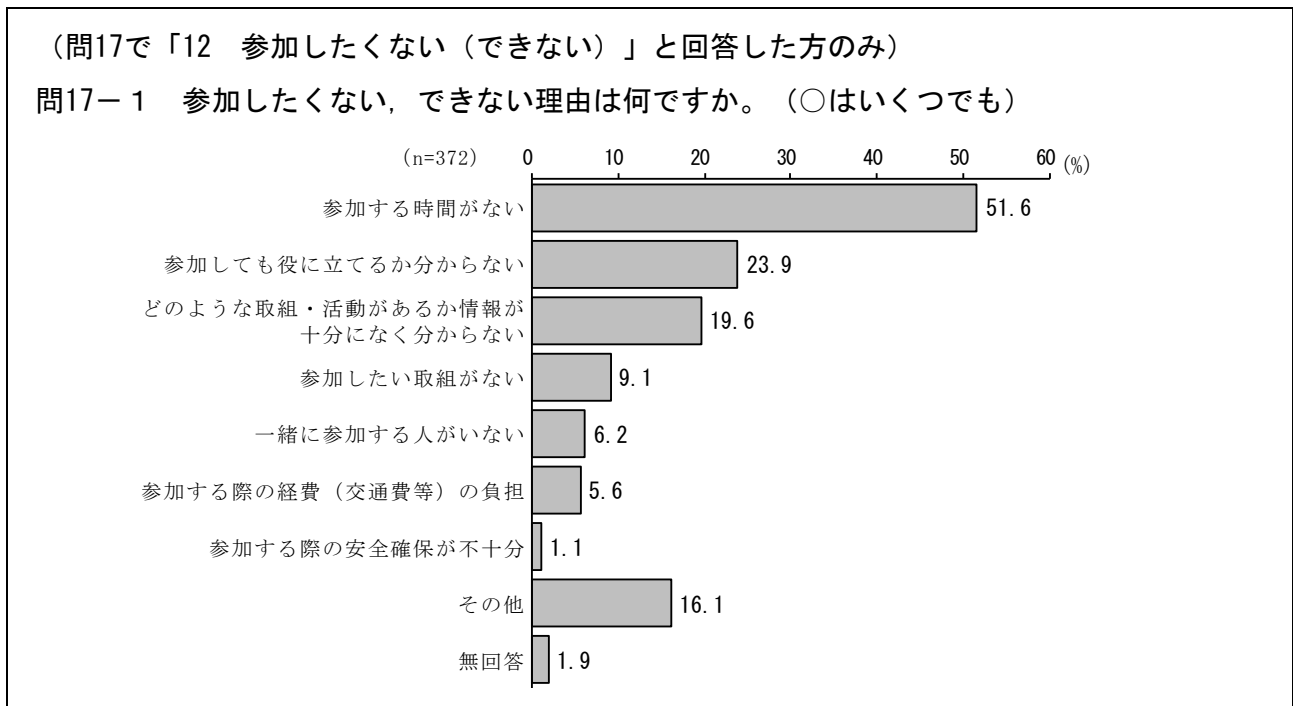


〈続き〉図V 17-1 地域の教育力向上のために、参加したい取組・活動  
 (地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別)



## 5. 地域の教育力向上のための取組・活動に参加したくない（できない）理由

### －「参加する時間がない」が5割超－



地域の教育力向上のための取組・活動に参加したくない（できない）理由としては、「参加する時間がない」（51.6%）が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「参加しても役に立てるか分からない」（23.9%）が2割台半ば、「どのような取組・活動があるか情報が十分になく分からない」（19.6%）が約2割で続いている。

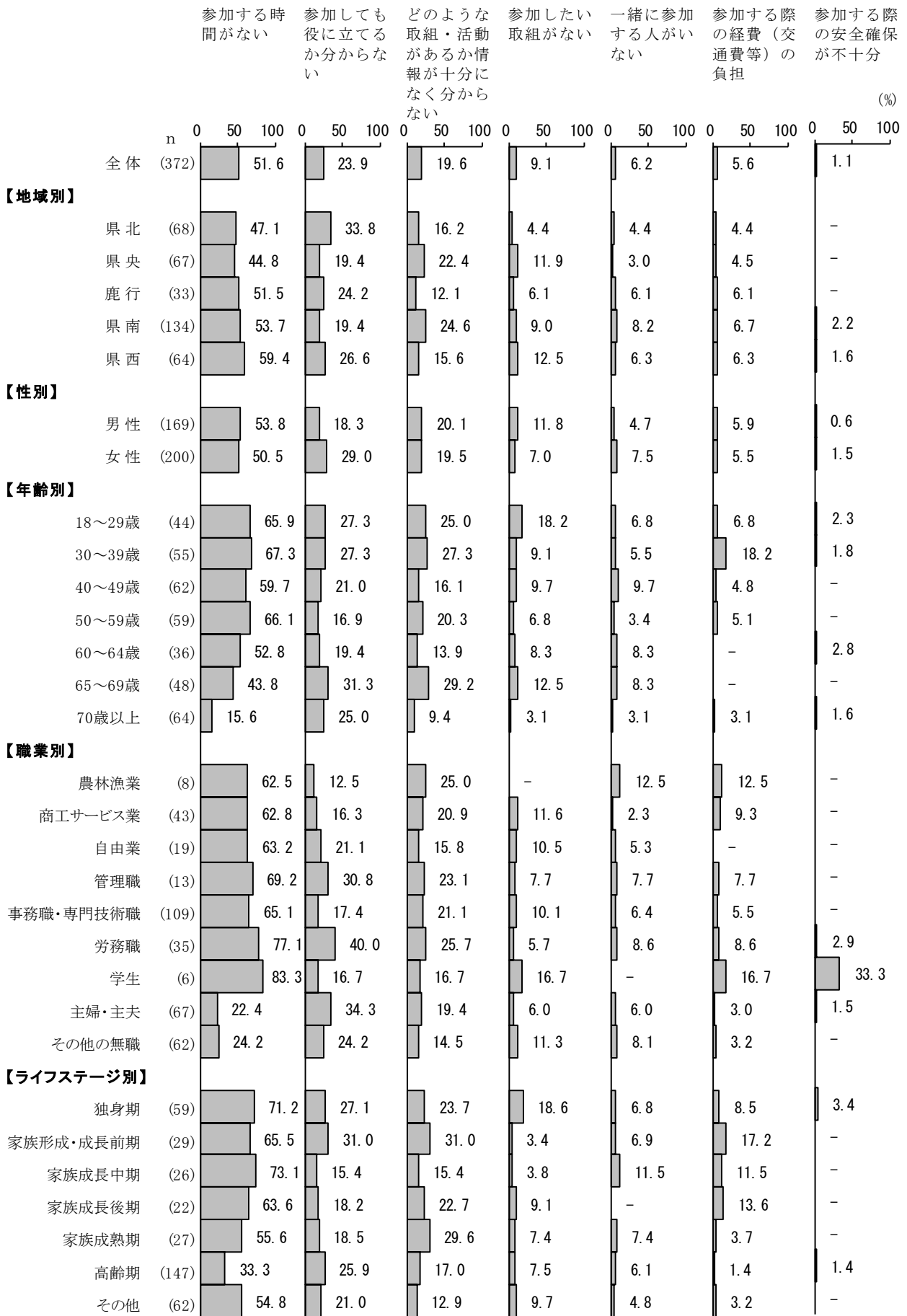
### －女性で「参加しても役に立てるか分からない」が男性よりも約11ポイント高い－

性別でみると、「参加しても役に立てるか分からない」は、女性（29.0%）が男性（18.3%）よりも約11ポイント高くなっている。

### －30代で「参加する時間がない」が約7割－

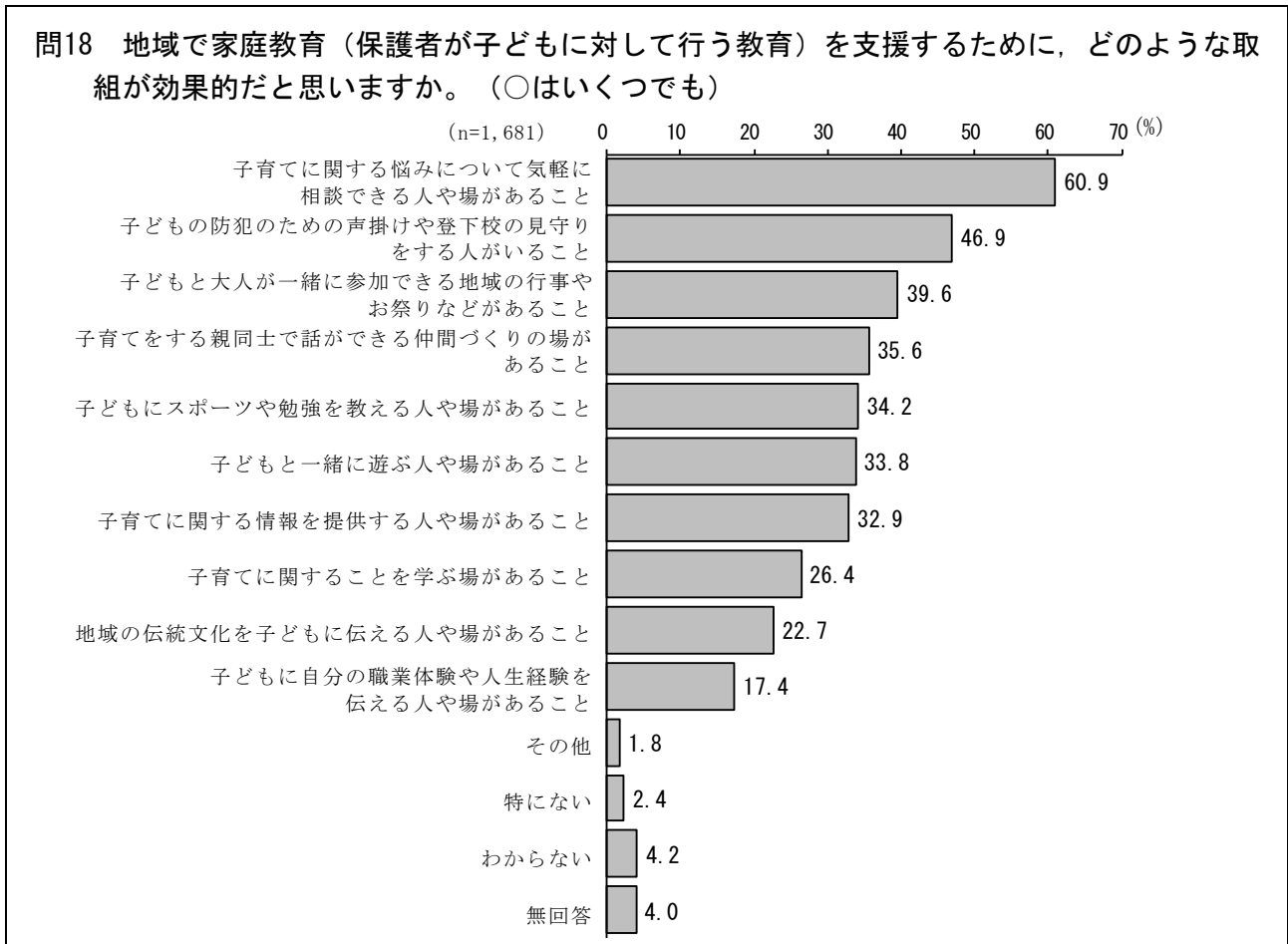
年齢別でみると、「参加する時間がない」は、30代（67.3%）で約7割と最も高く、次いで、18～29歳（65.9%）、50代（66.1%）で6割台半ばと高くなっている。

図V 17-1-1 地域の教育力向上のための取組・活動に参加したくない（できない）理由  
（地域別，性別，年齢別，職業別，ライフステージ別）



## 6. 地域で家庭教育を支援するために効果的な取組

－「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」が約6割－



地域で家庭教育を支援するために効果的な取組としては、「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」（60.9%）が約6割と最も高くなっている。次いで、「子どもの防犯のための声掛けや登下校の見守りをする人がいること」（46.9%）が4割台半ば、「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること」（39.6%）が約4割で続いている。

－女性で「子どもの防犯のための声掛けや登下校の見守りをする人がいること」が男性よりも11ポイント高い－

性別でみると、「子どもの防犯のための声掛けや登下校の見守りをする人がいること」は、女性（52.5%）が男性（41.5%）よりも11ポイント高くなっている。

－女性の18～29歳、50代、60～64歳で「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」が7割台前半－

性・年齢別でみると、「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」は、女性の18～29歳（70.7%）、50代（72.7%）、60～64歳（74.7%）で7割台前半と高くなっている。

－女性の50代で「子どもの防犯のための声掛けや登下校の見守りをする人がいること」が約6割－

性・年齢別でみると、「子どもの防犯のための声掛けや登下校の見守りをする人がいること」は、女性の50代（57.0%）で約6割と最も高くなっている。

**－女性の18～29歳で「子どもと一緒に遊ぶ人や場があること」が約5割－**

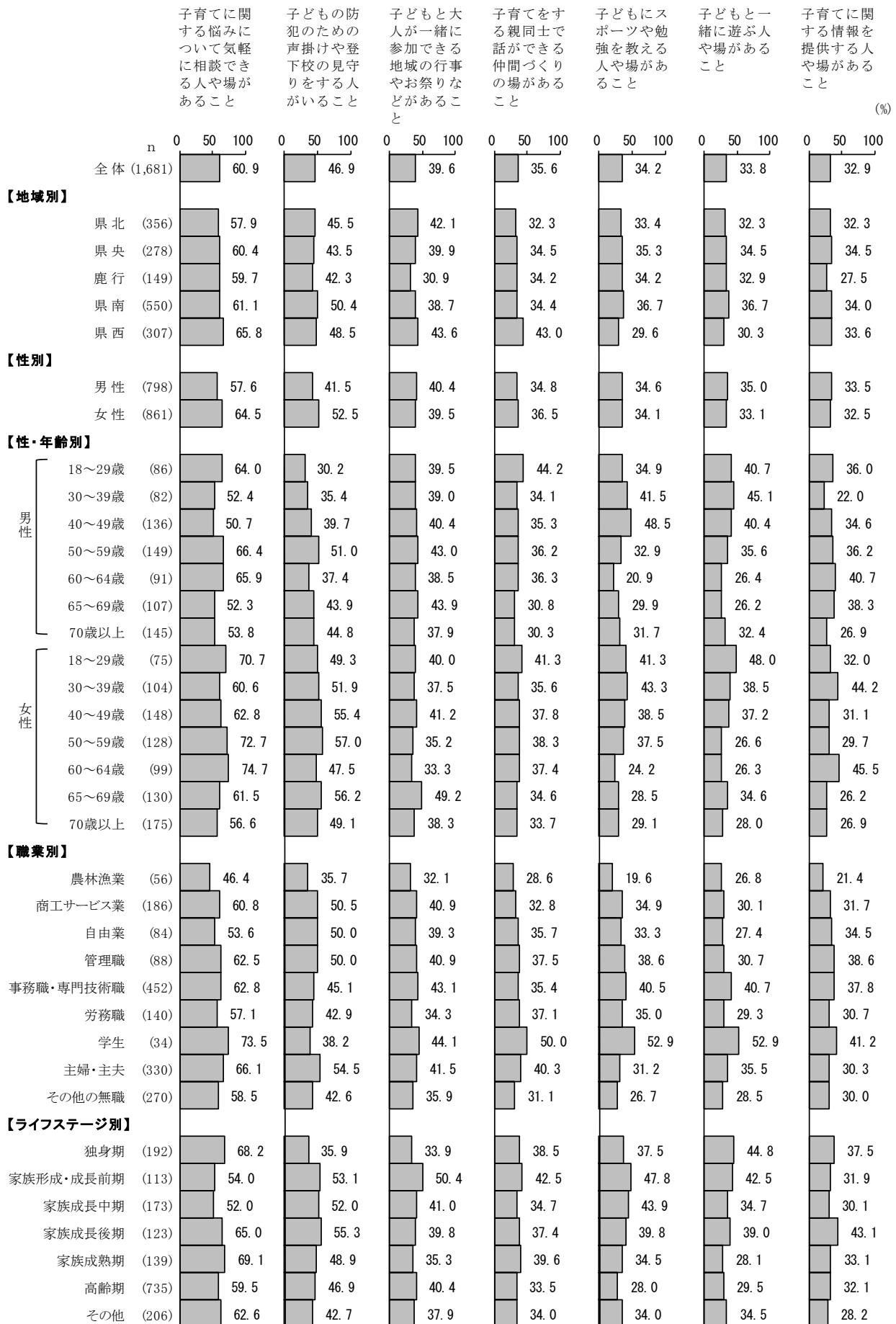
性・年齢別でみると、「子どもと一緒に遊ぶ人や場があること」は、女性の18～29歳（48.0%）で約5割と最も高く、次いで、男性の30代（45.1%）で4割台半ばと高くなっている。

**－家族形成・成長前期で「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること」が約5割－**

ライフステージ別でみると、「子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどがあること」は、家族形成・成長前期（50.4%）で約5割と最も高くなっている。



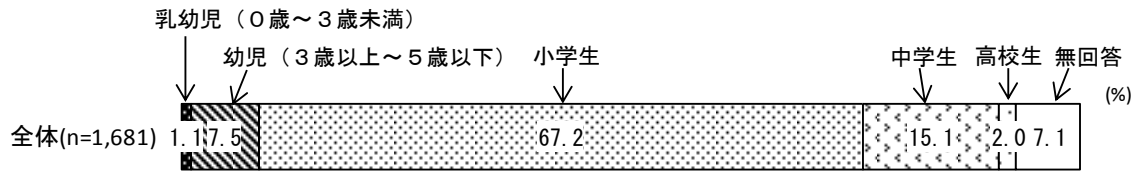
図V 18-1 地域で家庭教育を支援するために効果的な取組  
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別—上位7項目)



## 7. 地域での子どもの社会奉仕体験活動・自然体験活動が最も必要な時期

### －「小学生」が約7割－

問19 地域での子どもの社会奉仕体験活動・自然体験活動について、どんな時期に一番必要だと考えますか。（○は1つだけ）

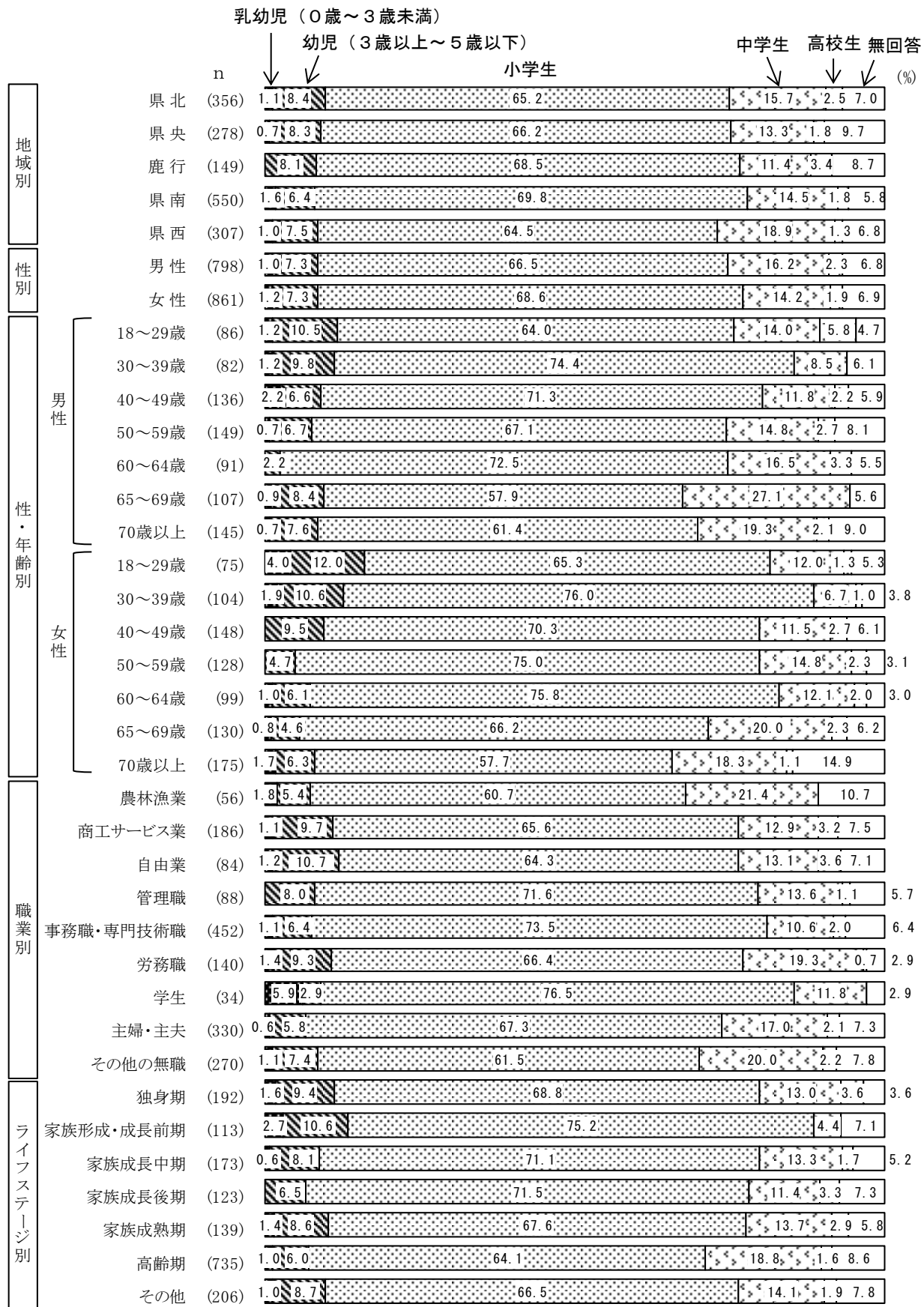


地域での子どもの社会奉仕体験活動・自然体験活動が最も必要な時期としては、「小学生」(67.2%)が約7割と最も高くなっている。次いで、「中学生」(15.1%)が1割台半ばとなっている。

### －男女の30代、女性の50代、60～64歳で「小学生」が7割台半ば－

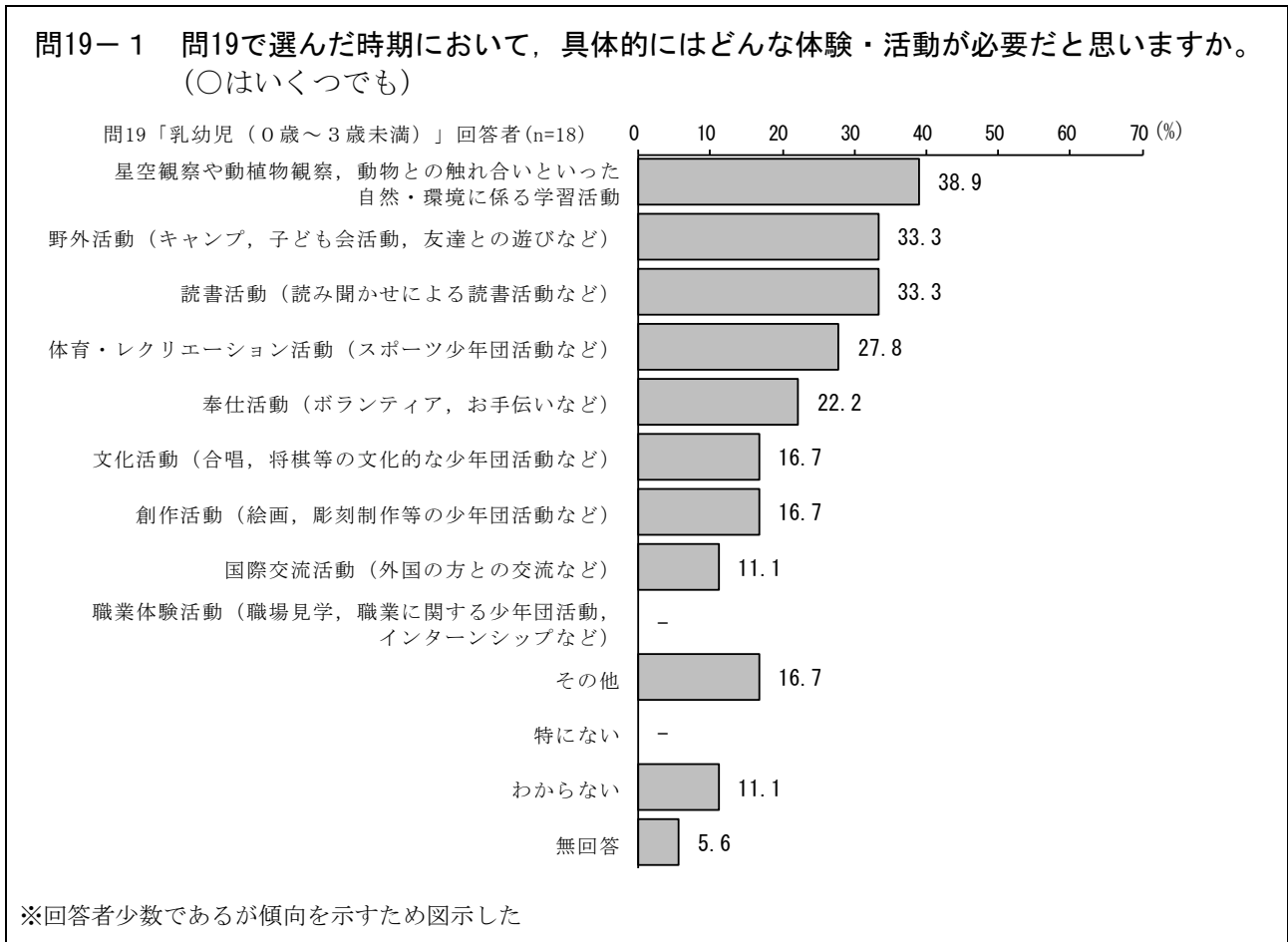
性・年齢別でみると、「小学生」は、男性の30代(74.4%)，女性30代(76.0%)，50代(75.0%)，60～64歳(75.8%)で7割台半ばと高くなっている。

図V 19-1 地域での子どもの社会奉仕体験活動・自然体験活動が最も必要な時期  
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別)



## 8. 地域での子どもの社会奉仕体験活動・自然体験活動で、時期ごとに必要な体験・活動

### (1) 「乳幼児（0歳～3歳未満）」に必要な体験・活動

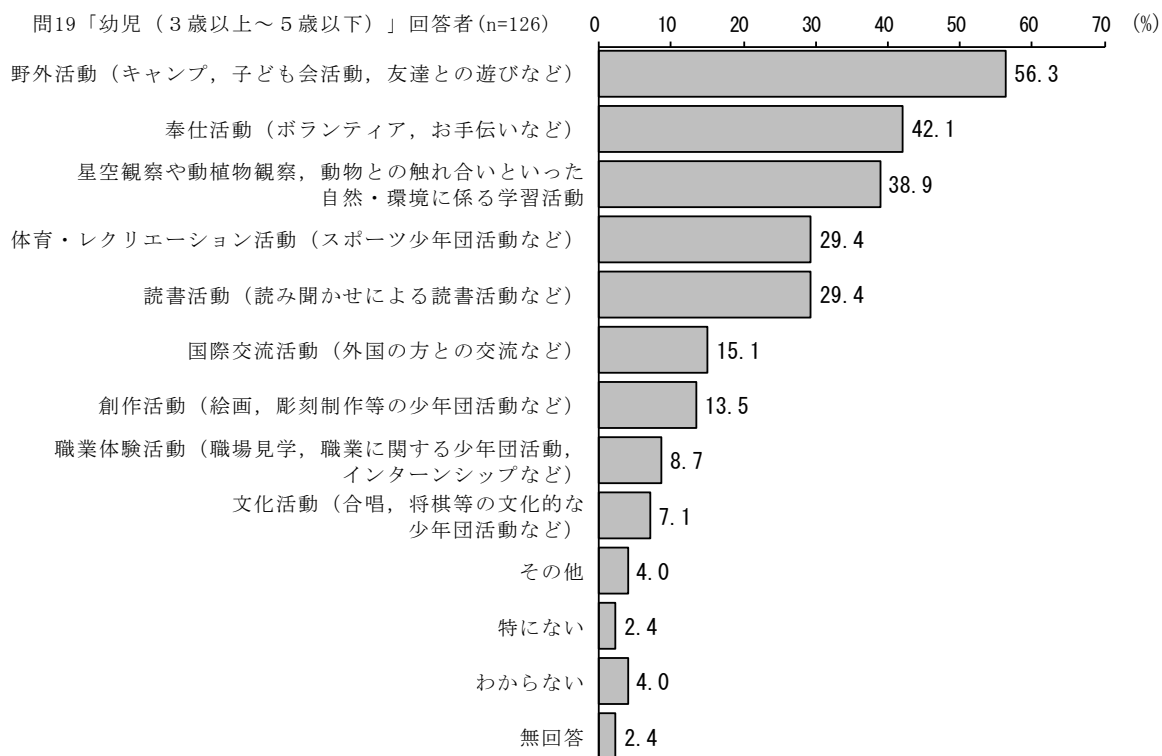


回答者数は少ないが、地域での子どもの社会奉仕体験活動・自然体験活動で、「乳幼児（0歳～3歳未満）」に必要な体験・活動としては、「星空観察や動植物観察，動物との触れ合いといった自然・環境に係る学習活動」（38.9%）が約4割と最も高くなっている。次いで、「読書活動（読み聞かせによる読書活動など）」（33.3%）と「野外活動（キャンプ，子ども会活動，友達との遊びなど）」（33.3%）が3割台半ばで続いている。

(2) 「幼児（3歳以上～5歳以下）」に必要な体験・活動

－「野外活動（キャンプ，子ども会活動，友達との遊びなど）」は5割台半ば－

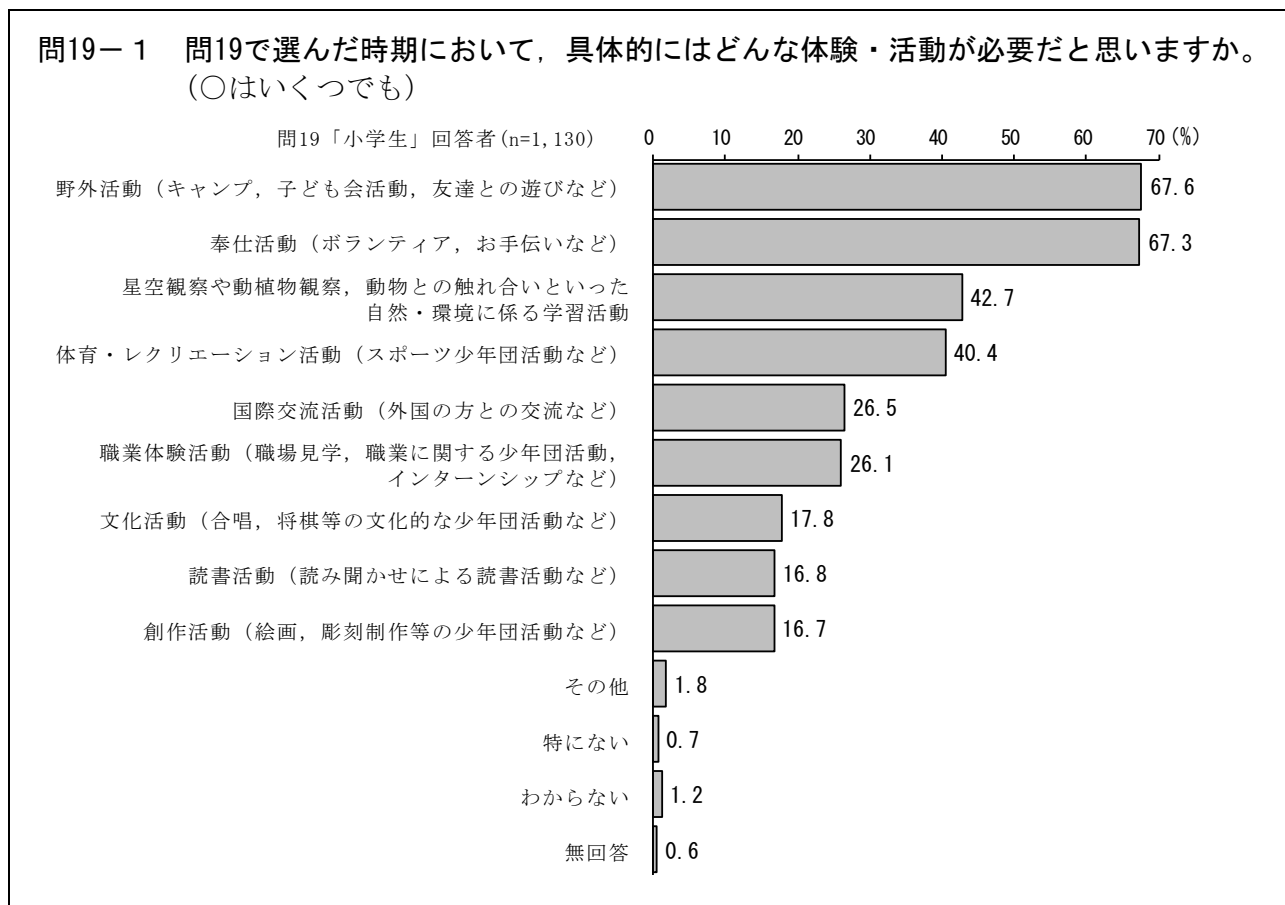
問19-1 問19で選んだ時期において，具体的にはどんな体験・活動が必要だと思いますか。  
(○はいくつでも)



地域での子どもの社会奉仕体験活動・自然体験活動で，「幼児（3歳以上～5歳以下）」に必要な体験・活動としては，「野外活動（キャンプ，子ども会活動，友達との遊びなど）」（56.3%）が5割台半ばと最も高くなっている。次いで，「奉仕活動（ボランティア，お手伝いなど）」（42.1%）が4割を超え，「星空観察や動植物観察，動物との触れ合いといった自然・環境に係る学習活動」（38.9%）が約4割で続いている。

(3) 「小学生」に必要な体験・活動

－「野外活動（キャンプ，子ども会活動，友達との遊びなど）」と「奉仕活動（ボランティア，お手伝いなど）」が約7割－



地域での子どもの社会奉仕体験活動・自然体験活動で，「小学生」に必要な体験・活動としては，「野外活動（キャンプ，子ども会活動，友達との遊びなど）」（67.6%）と「奉仕活動（ボランティア，お手伝いなど）」（67.3%）が約7割と高くなっている。次いで，「星空観察や動植物観察，動物との触れ合いといった自然・環境に係る学習活動」（42.7%）が4割を超え，「体育・レクリエーション活動（スポーツ少年団活動など）」（40.4%）が約4割で続いている。

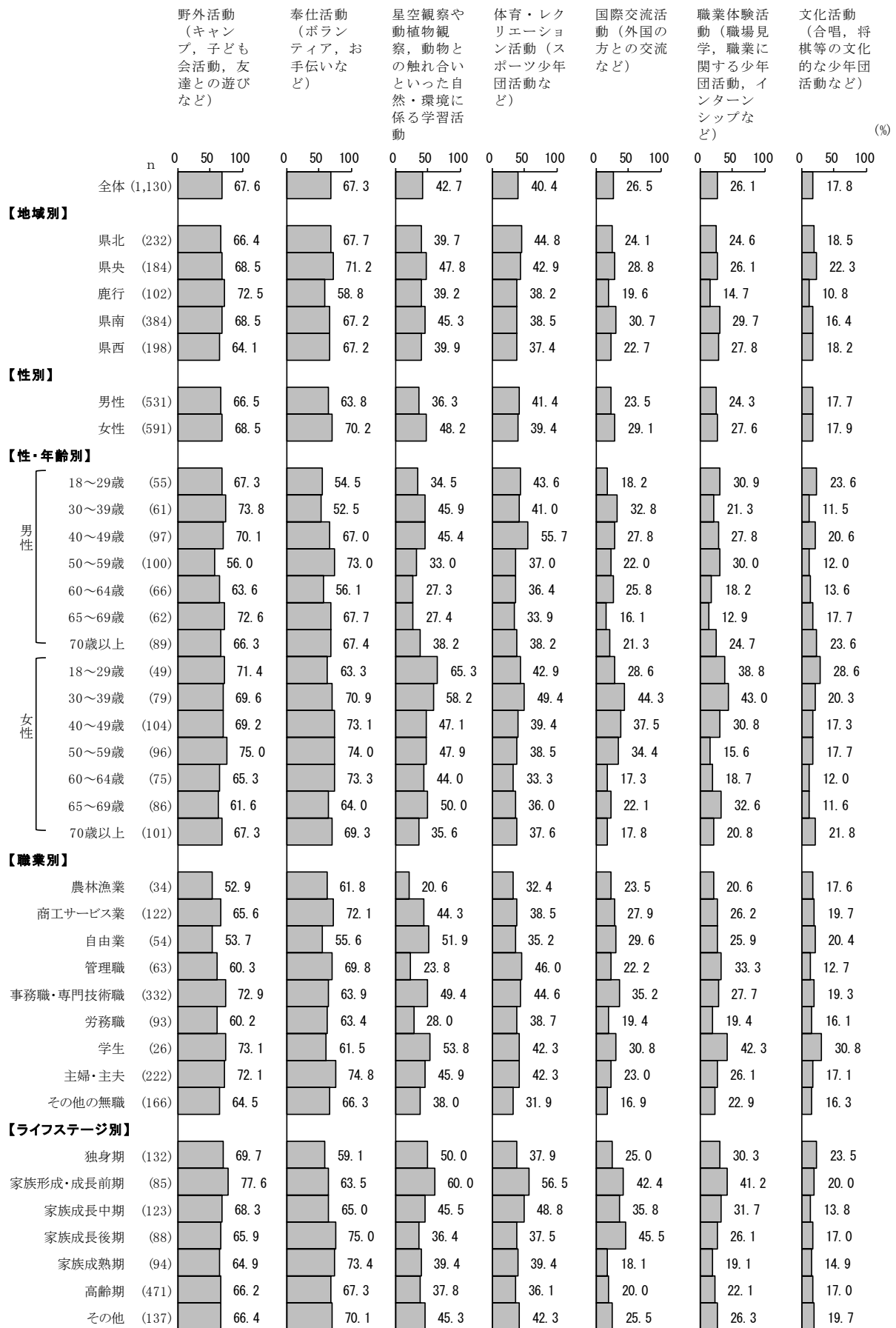
－女性で「星空観察や動植物観察，動物との触れ合いといった自然・環境に係る学習活動」が男性よりも約12ポイント高い－

性別でみると，「星空観察や動植物観察，動物との触れ合いといった自然・環境に係る学習活動」は，女性（48.2%）が男性（36.3%）よりも約12ポイント高くなっている。

－家族形成・成長前期で「野外活動（キャンプ，子ども会活動，友達との遊びなど）」が約8割－

ライフステージ別でみると，「野外活動（キャンプ，子ども会活動，友達との遊びなど）」は，家族形成・成長前期（77.6%）で約8割と最も高くなっている。

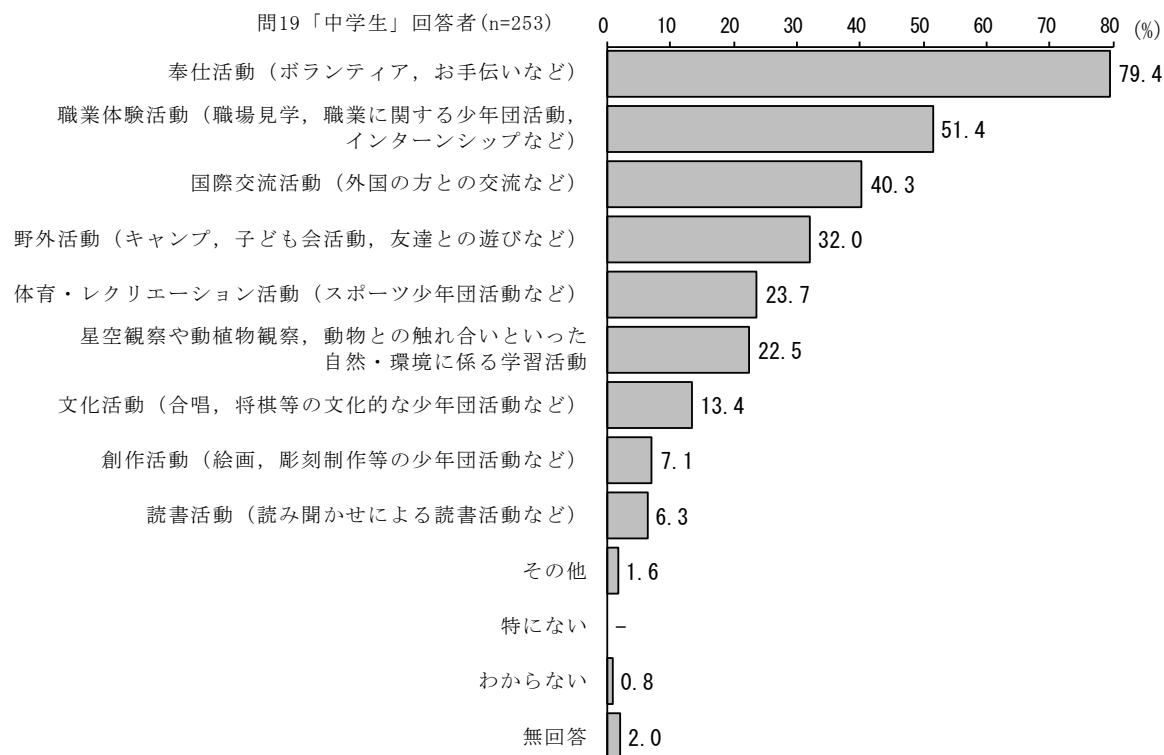
図V 19-1-1 「小学生」に必要な体験・活動  
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別—上位7項目)



(4) 「中学生」に必要な体験・活動

－「奉仕活動（ボランティア，お手伝いなど）」は約8割－

問19－1 問19で選んだ時期において，具体的にはどんな体験・活動が必要だと思いますか。  
(○はいくつでも)



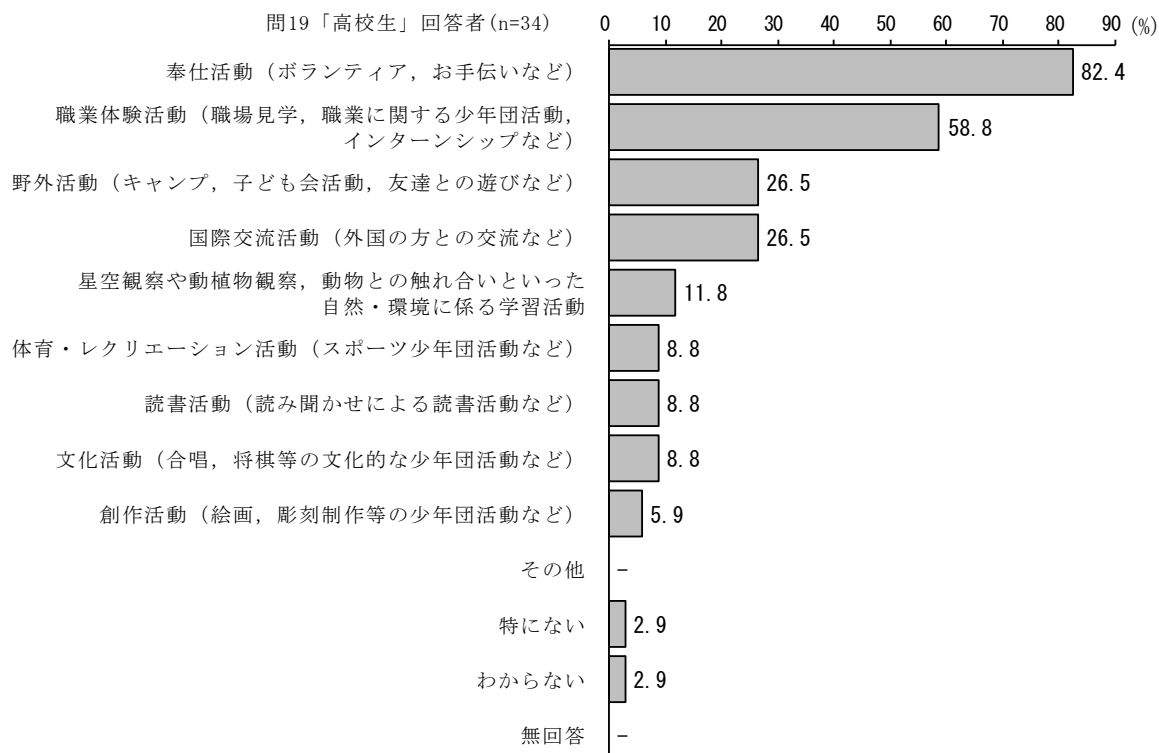
地域での子どもの社会奉仕体験活動・自然体験活動で，「中学生」に必要な体験・活動としては，「奉仕活動（ボランティア，お手伝いなど）」（79.4%）が約8割と最も高くなっている。次いで，「職業体験活動（職場見学，職業に関する少年団活動，インターンシップなど）」（51.4%）が5割を超え，「国際交流活動（外国の方との交流など）」（40.3%）が約4割で続いている。



(5) 「高校生」に必要な体験・活動

－「奉仕活動（ボランティア，お手伝いなど）」が8割超－

問19-1 問19で選んだ時期において，具体的にはどんな体験・活動が必要だと思いますか。  
(○はいくつでも)



地域での子どもの社会奉仕体験活動・自然体験活動で，「高校生」に必要な体験・活動としては，「奉仕活動（ボランティア，お手伝いなど）」（82.4%）が8割を超えて最も高くなっている。次いで，「職業体験活動（職場見学，職業に関する少年団活動，インターンシップなど）」（58.8%）が約6割で続いている。